

土砂防がだより



- 新年度の御挨拶..... 2
- 令和7年度の行事予定 3
- ・がけ崩れ防災週間 ・土砂災害防止月間
- 令和7年度 砂防関係当初予算 4
- 令和7年度 政府予算案閣議決定 6
- 土砂災害に対する「日頃の備え」と「早めの避難」 7
- ～梅雨・台風の前に再確認～
- あなたのまちの安全度 8
- 「土砂災害防止に関する絵画・作文」優秀作品の表彰 10
- わがまち(熱海市) 13
- 歴史探訪 狩野川台風..... 13
- インフォメーション 14
- お知らせ 16

速報 令和7年度 砂防関係当初予算

特集 あなたのまちの安全度

「土砂災害防止に関する絵画・作文」
優秀作品の表彰



新年度の御挨拶

陽春の候、会員の皆様には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年は、45の都道府県で1,433件の土砂災害が発生し、死者56名、人家被害705戸の被害が生じました。その約半数が元日の能登半島地震や9月の線状降水帯により甚大な被害となった石川県で発生しており、現在、本県の土木技術職員が災害の復旧支援に派遣されています。

本県におきましては、台風第10号等により、全国で2番目に多い86件の土砂災害が発生し、住宅半壊2戸や一部損壊3戸等の被害が生じましたが、砂防堰堤や急傾斜の擁壁が土砂等を食い止めた効果事例が18箇所確認され、幸いにも人的被害はありませんでした。

また、これらの土砂災害のうち、規模の大きかった静岡市と熱海市の土石流1箇所とがけ崩れ3箇所について、再度災害を防止する国の災害関連緊急事業に採択され、砂防堰堤等を緊急的に整備し、地域住民の安全確保を図ってまいります。

県では、激甚化・頻発化する土砂災害から県民の生命と財産を守るため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の令和6年度補正予算とともに、令和7年度当初予算の着実な執行に努め、市町と連携し、ハード対策とソフト対策の両面からの総合的な土砂災害対策を集中的に推進してまいります。

また、令和7年度は、緊急自然災害防止対策事業債を活用した「緊急豪雨災害対策強化事業」により、過去に土砂災害を受けた地区、生活インフラ施設や要配慮者利用施設を保全する土砂災害防止施設を緊急的に整備してまいります。

早めの避難につながるソフト対策については、新たに公表した9,047箇所の土砂災害警戒区域の候補箇所の基礎調査を本格的に実施し、順次区域の指定を進めてまいります。また、土砂災害警戒情報の発表精度の向上とともに、土砂災害警戒区域の現地表示やハザードマップ作成・防災訓練などの市町の警戒避難体制整備への支援、土砂災害防止講習会や出前講座などによる防災知識の普及・啓発に取り組んでまいります。

いずれの施策につきましても、会員の皆様との協調と連携により初めて成果をなすものであります。今後とも、会員の皆様方には、より一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

令和7年4月1日

全国治水砂防協会静岡県支部 常任幹事

杉山 一仁

静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課

TEL 054-221-3044
FAX 054-221-3564

砂防課長

杉山 一仁

☎3382

課長代理

松村 昌広

☎3382

- ・課長の代理
- ・砂防協会、砂防ボランティア事務

砂防班

<p>主幹兼砂防班総括主査 山田 能弘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警戒避難体制整備の促進 ・砂防指定地内行為許可申請の技術審査 	<p>マイクロー 342</p> <p>班 長 久木田 真次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂防班の総括 ・直轄砂防事業の調整
<p>主 査 三井 良太</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県単砂防事業 ・災害関連緊急砂防事業 ・砂防指定地の指定 	<p>主 査 山崎 悠平</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害防止法に関すること ・基礎調査 ・土砂災害警戒区域等の指定・解除
<p>技 師 高井 悠任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤整備事業 ・土砂災害防止の広報・啓発 ・演習場周辺地区障害防止事業 	<p>土砂災害 110番 ☎3044</p> <p>主 任 原崎 健輔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助・交付金砂防事業 ・砂防技術基準

傾斜地保全班

<p>班 長 渥美 晃岳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜地保全班の総括 ・直轄地すべり事業の調整 	<p>マイクロー 341</p> <p>主 査 岩田 雅裕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地すべり事業(林野) ・災害緊急地すべり事業(林野) ・県単急傾斜地事業(新設)
<p>主 査 鈴木 隆明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助・交付金急傾斜地事業 ・災害緊急急傾斜地事業 ・急傾斜地崩壊対策の技術基準 	<p>主 任 稲森 花保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地すべり事業(農地) ・災害緊急地すべり事業(農地) ・県単急傾斜地事業(維持) ・急傾斜地崩壊危険区域の指定
<p>技 師 武藤 真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害警戒情報 ・地すべり事業(国交) ・災害緊急地すべり事業(国交) 	<p>土砂災害 110番 ☎3042</p> <p>砂防協会 吉澤 舞里子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂防協会の事務・経理

※指定地管理及び砂利・碎石関係事務等は、「河川砂防管理課」で担当します。

河川砂防管理課 ☎3028 (課長)後藤 祐介
河川砂防管理班 ☎3034 (班長)伊藤 達也 (主任)福地 伸泰 (主事)平野 悠

※水防に関すること、交通基盤部内の防災対策の総合調整及び災害復旧事業の総括に関することについては、同室内にある「土木防災課」で担当します。

土木防災課 ☎3033

【令和7年度の行事予定】

月 日	時刻	会 場	会場等
4月 17日(木)	11:00	全国治水砂防協会静岡県支部会計監査	静岡市内
5月 22日(木)	14:00	全国治水砂防協会静岡県支部役員会	静岡市内
〃 22日(木)	15:00	全国治水砂防協会静岡県支部令和7年度(第80回)通常総会	静岡市内
〃 29日(木)	11:00	(一社)全国治水砂防協会令和7年度(第89回)通常総会	砂防会館(東京都)
6月 1日(日)~ 7日(土)		がけ崩れ防災週間	静岡県内各地
〃 1日(日)~30日(月)		土砂災害防止月間	静岡県内各地
〃 1日(日)		土砂災害・全国防災訓練	静岡県内各地
〃 3日(火)		「土砂災害防止月間」キャンペーンバス出発式	バス営業所
〃 4日(水)~6日(金)		「土砂災害防止月間」街頭キャンペーン	JR静岡駅、浜松駅、沼津駅
〃 6日(金)、13日(金)		市町等砂防担当職員研修(防災演習)	静岡県庁、下田総合庁舎
〃 6月14日(土)		みんなで防ごう土砂災害(砂防フェスティバル)	青葉シンボルロード(静岡市)
8月28日(木)~30日(土)		市町長等砂防関係事業県外視察	宮城県内(予定)
10月 下旬		東海地区砂防協会支部長・砂防課長合同会議	愛知県内
11月 下旬		市町等砂防担当職員研修(現場研修)	検討中
〃 13日(木)	11:00	全国治水砂防促進大会	砂防会館(東京都)
2月 中旬		第66回砂防および地すべり防止講習会	砂防会館(東京都)

※太字の行事について、会員の積極的な御参加をお願い申し上げます。

がけ崩れ防災週間 土砂災害防止月間

6月1日(日)~ 7日(土)

6月1日(日)~30日(月)

土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害は、台風や集中豪雨などが原因となって発生します。梅雨時は雨がが多く土砂災害が発生しやすい時期です。近年は激甚化・頻発化する豪雨等による被害が増えていますので、雨が降りだしたら防災・気象情報などに注意して、早めの避難を心がけましょう。

毎年、梅雨入りを迎える6月を土砂災害防止月間として、県民の皆様に土砂災害防止について御理解と関心を深めていただくため、国、県、市町などの関係機関が連携し、防災訓練や講習会、急傾斜地パトロールなどを実施します。

行事予定

- 6月1日(日)~30日(月) 急傾斜地パトロール(重点実施)
- 6月1日(日) 土砂災害・全国防災訓練
- 6月3日(火) 「土砂災害防止月間」キャンペーン出陣式
- 6月4日(水)~6日(金) 「土砂災害防止月間」街頭キャンペーン
- 6月14日(土) みんなで防ごう土砂災害(砂防フェスティバル)の開催(青葉シンボルロード)
- 6月1日(日)~ 9月15日(月) 「土砂災害に防止に関する絵画・作文」の作品募集



砂防フェスティバル2024(静岡市青葉シンボルロード)

速報

令和7年度

砂防関係当初予算 98億2,314万円余

令和7年度当初予算が令和7年2月県議会定例会において可決され、静岡県一般会計の歳出総額は1兆3,723億円で、前年度に比べ563億円の増、対前年度比104.3%となりました。

砂防関係事業の予算は、県財政の健全化の方針により、予算総額約98億2,315万円、前年度より14億400万円の減、対前年度比87.5%となりました。

主な内訳は次のとおりです。

1 一般公共事業

41億4,600万円(対前年比0.75)

国の補助や交付金を活用し、砂防堰堤等の防止施設の整備とともに、9,047箇所 of 土砂災害警戒区域の候補箇所の基礎調査や指定を本格的に進め、危険な箇所の周知や市町の警戒避難体制の整備を促進するソフト対策に取り組みます。

2 県単独事業

34億6,500万円(対前年比1.00)

国庫補助事業や交付金事業に採択されない箇所の防止施設の整備や調査等を実施します。

なお、令和7年度より、緊急豪雨災害対策強化事業を創設し、緊急的に生活インフラや要配慮者利用施設への土砂災害対策を実施します。

3 国直轄事業費負担金

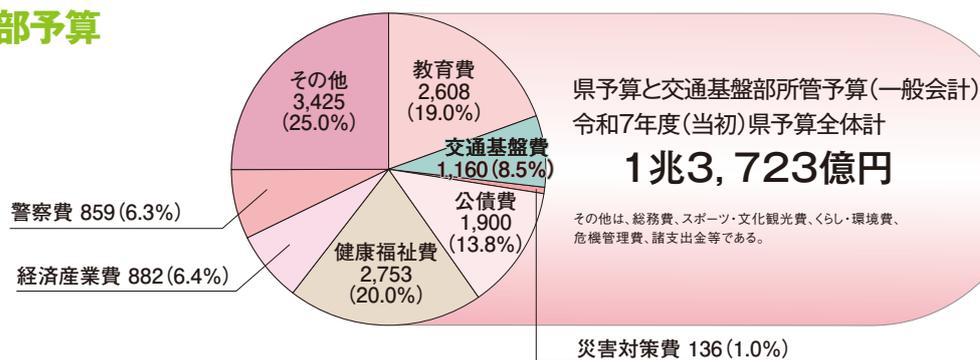
22億1,000万円(対前年比1.00)

富士山、安倍川、狩野川において国土交通省が行う直轄砂防事業及び由比地区直轄地すべり対策事業に対する県負担金です。

静岡県の砂防関係予算

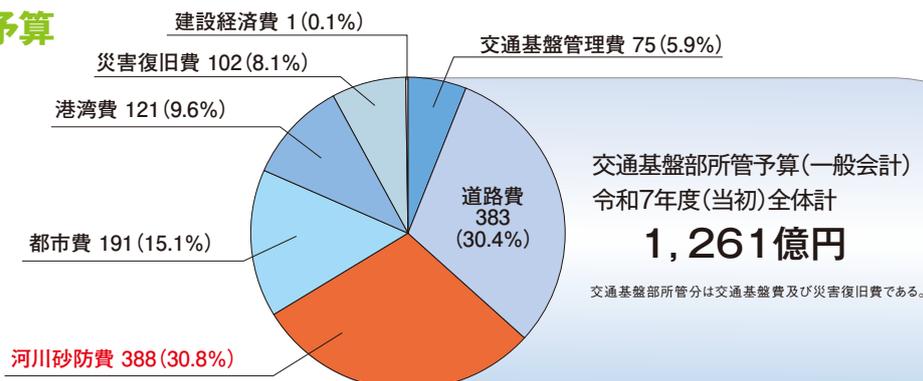
● 県予算と交通基盤部予算

令和7年度(当初)



● 交通基盤部所管予算

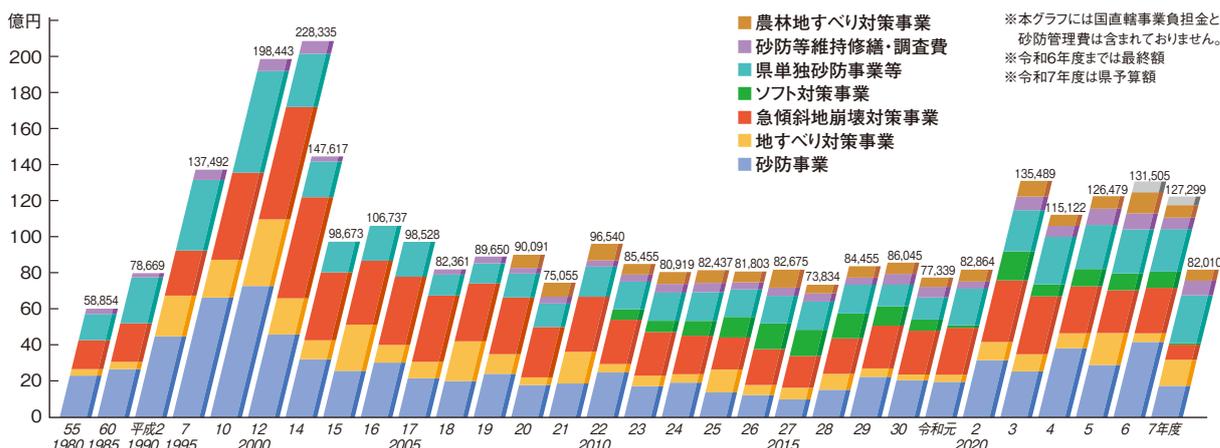
令和7年度(当初)



令和7年度 砂防関係事業等予算額調書

事業名		令和7年度 当初 A	令和6年度 当初 B	令和6年度 最終 C	A/B	A/C	
★砂防管理費 (第1目) 計		2,148	2,148	2,147	100.0	100.0	
一般公共事業	国庫補助	砂防 通常砂防事業	336,000	336,000	320,955	100.0	104.7
		砂防 火山砂防事業	17,400	17,100	78,750	101.8	22.1
		砂防事業 計	353,400	353,100	399,705	100.1	88.4
		地すべり対策	74,550	74,550	117,495	100.0	63.4
		急傾斜地崩壊対策	237,300	237,300	252,525	100.0	94.0
		メンテ 砂防メンテナンス(砂防)	255,150	404,250	1,140,300	63.1	22.4
		砂防メンテナンス(地すべり)	30,450	69,300	61,950	43.9	49.2
		砂防メンテナンス(急傾斜)	24,150	10,500	25,200	230.0	95.8
		砂防メンテナンス事業 計	309,750	484,050	1,227,450	64.0	25.2
		通常国庫補助事業 計	975,000	1,149,000	1,997,175	84.9	48.8
	防災・安全交付金	砂防 通常砂防事業	586,850	679,785	1,327,273	86.3	44.2
		砂防 火山砂防事業	129,150	150,150	372,750	86.0	34.6
		砂防 火山噴火緊急減災対策	15,750	15,750	8,085	100.0	194.8
		砂防事業 計	731,750	845,685	1,708,108	86.5	42.8
		地すべり対策事業 計	54,600	64,050	154,350	85.2	35.4
		急傾斜地崩壊対策事業 計	443,100	1,108,800	2,184,558	40.0	20.3
		総流防 土砂・洪水氾濫対策	8,400		10,500	皆増	80.0
		情報基盤緊急整備	42,000	42,315	364,350	99.3	11.5
		盛土緊急対策	10,000	430,000	557,500	2.3	1.8
		基礎調査	3,150	3,150	854,650	100.0	0.4
総合流域防災事業 計	63,550	475,465	1,787,000	13.4	3.6		
効果促進事業(ソフト)			906	—	皆減		
防災・安全交付金 計	1,293,000	2,494,000	5,834,922	51.8	22.2		
国庫補助・防災・安全交付金 計	2,268,000	3,643,000	7,832,097	62.3	29.0		
東富士演習場周辺地区障害防止対策事業	63,000	80,000	67,126	78.8	93.9		
県単独事業	特定緊急砂防				—	—	
	特定緊急地すべり				—	—	
	災害関連緊急砂防	362,000	362,000	308,195	100.0	117.5	
	災害関連緊急地すべり対策	1,280,000	1,280,000		100.0	皆増	
	災害関連緊急急傾斜地崩壊対策	173,000	173,000	189,834	100.0	91.1	
	地域かけ崩れ崩壊対策事業費				—	—	
	災害関連緊急事業 計	1,815,000	1,815,000	498,029	100.0	364.4	
	一般公共事業 計	4,146,000	5,538,000	8,397,252	74.9	49.4	
	生活環境整備	通常砂防	180,000	180,000	215,000	100.0	83.7
		地すべり対策	65,000	65,000		100.0	皆増
		急傾斜地崩壊対策	223,000	223,000	124,200	100.0	179.5
		砂防等維持修繕	493,000	493,000	616,185	100.0	80.0
		砂防等調査	293,000	293,000	244,615	100.0	119.8
		砂防等台帳整備	11,000	11,000	15,000	100.0	73.3
		生活環境整備事業 計	1,265,000	1,265,000	1,215,000	100.0	104.1
		施設整備	112,000	112,000	156,047	100.0	71.8
		指定促進対策	8,000	8,000	13,953	100.0	57.3
		急傾斜地崩壊対策事業費補助	120,000	120,000	170,000	100.0	70.6
	砂防県単事業 計	1,385,000	1,385,000	1,385,000	100.0	100.0	
	緊急豪雨災害	砂防	420,000	348,000	358,000	120.7	117.3
地すべり		80,000	218,000	218,000	36.7	36.7	
(国交省)		15,000	95,000	95,000	15.8	15.8	
(治山)		50,000	98,000	98,000	51.0	51.0	
(農地)		15,000	25,000	25,000	60.0	60.0	
急傾斜地崩壊対策		400,000	334,000	324,000	119.8	123.5	
緊急豪雨災害対策強化事業		900,000	900,000	900,000	100.0	100.0	
砂防		438,000	241,000	241,000	181.7	181.7	
急傾斜地崩壊対策		242,000	439,000	439,000	55.1	55.1	
緊急自然災害防止対策事業		680,000	680,000	680,000	100.0	100.0	
県土強靱化対策事業	500,000	500,000	500,000	100.0	100.0		
砂防	砂防	1,538,000	1,269,000	1,314,000	121.2	117.0	
	地すべり対策	145,000	283,000	218,000	51.2	66.5	
	急傾斜地崩壊対策	985,000	1,116,000	1,057,200	88.3	93.2	
	その他(維持修繕・調査)	797,000	797,000	875,800	100.0	91.0	
	県単独事業 計	3,465,000	3,465,000	3,465,000	100.0	100.0	
	砂防費 (第4目) 計	7,611,000	9,003,000	11,862,252	84.5	64.2	
	一般公共	農地地すべり	189,000	217,000	331,875	87.1	56.9
		農地地すべり(災害関連分)	23,000	23,000		100.0	皆増
		治山地すべり	176,000	185,000	398,815	95.1	44.1
		治山地すべり(災害関連分)	65,000	65,000		100.0	皆増
農林地すべり一般公共事業 計		453,000	490,000	730,690	92.4	62.0	
県単独		県単農地地すべり	63,000	63,000	63,000	100.0	100.0
		県単治山地すべり	74,000	74,000	74,000	100.0	100.0
		生活環境整備事業 計	137,000	137,000	137,000	100.0	100.0
		農林地すべり県単事業 計	137,000	137,000	137,000	100.0	100.0
		農地地すべり	252,000	280,000	394,875	90.0	63.8
	治山地すべり	250,000	259,000	472,815	96.5	52.9	
	災害関連分	88,000	88,000		100.0	皆増	
	○農林地すべり対策費(第5目) 計	590,000	627,000	867,690	94.1	68.0	
	★国直轄事業費負担金 (第6目) 計	2,210,000	2,222,000	3,078,898	99.5	71.8	
	合計		10,413,148	11,854,148	15,810,987	87.8	65.9
合計から○を除く		9,823,148	11,227,148	14,943,297	87.5	65.7	
合計から★を除く		8,201,000	9,630,000	12,729,942	85.2	64.4	

砂防関係事業費の推移



令和7年度 政府予算案閣議決定

令和6年12月27日(金)、令和7年度政府予算案が閣議決定されました。国土交通省の行政経費等を含む予算額は、国費ベースで対前年度比1.00倍の5兆9,528億円となり、防災・減災・国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図っていきます。

予算のポイントの内、砂防関係事業に関するものを示します。

国土交通省関係予算国費

単位：億円

事項	令和7年度 (A)	令和6年度 (B)	対前年度倍率 (A/B)
水管理・国土保全局関係予算	10,402	10,068	1.03
治水事業等関係費	8,770	8,692	1.01
河川関係	7,178	7,129	1.01
砂防関係	1,422	1,393	1.02
海岸関係	170	170	1.00
下水道事業関係費	1,632	1,376	1.19
社会資本総合整備	13,344	13,772	0.97
うち防災・安全交付金	8,470	8,707	0.97
その他(道路・港湾等)	35,782	35,697	1.00
合計	59,528	59,537	1.00

左記計数には、デジタル庁一括計上分を含まない
個別補助化に伴う増分328億円を含む

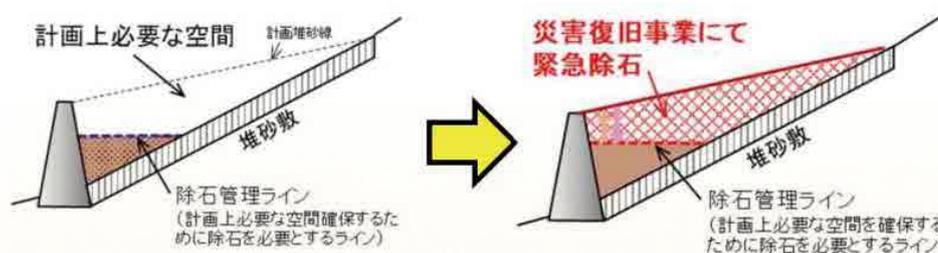
砂防関係事業の新規制度等

(国土交通省砂防部資料より抜粋)

<災害復旧事業による砂防堰堤等の緊急除石>

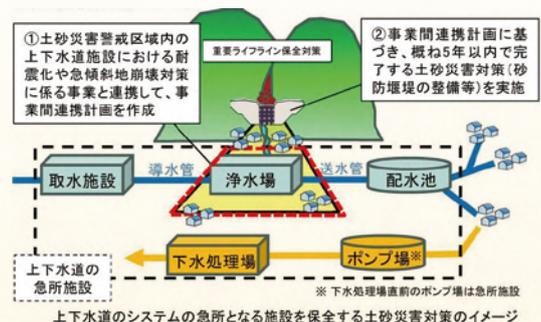
砂防堰堤等が土石流を捕捉した場合には、土砂・流木によって堆砂敷が埋塞し、砂防施設として必要な機能が失われることから、早期に機能を復旧させるため、災害復旧事業として緊急的な除石が可能な制度に拡充する。
(※除石計画に基づく定期的な点検や除石の実施等、一定の条件あり)

<不透過型堰堤の場合>



<ライフラインを保全する土砂災害対策の推進>

「事業間連携砂防等事業」を拡充し、上下水道施設のうち機能が失われると広範囲かつ長期的に影響が及ぶシステムの急所となるものについて、土砂災害警戒区域内に位置する施設の耐震化や急傾斜地崩壊対策に係る事業と連携して実施する土砂災害対策を新たに対象とする。



土砂災害に対する「日頃の備え」と「早めの避難」

～梅雨・台風の前に再確認!～

県では、土砂災害に対するソフト対策として、土砂災害のおそれがある箇所を土砂災害警戒区域に指定するとともに、静岡県ホームページでの公開や現地への標識設置などにより、県民の皆様へ土砂災害の危険性を周知しています。

また、市町の避難指示や住民の自主避難に役立つ情報として、大雨により土砂災害の危険性が高まった際に静岡地方気象台と共同で土砂災害警戒情報を発表するなど住民の実効性のある避難行動を支援しています。

梅雨・台風など本格的な降雨の時期が到来するまでに、今一度、土砂災害に対する「日頃の備え」と「早めの避難」について、御家族などで確認してください。

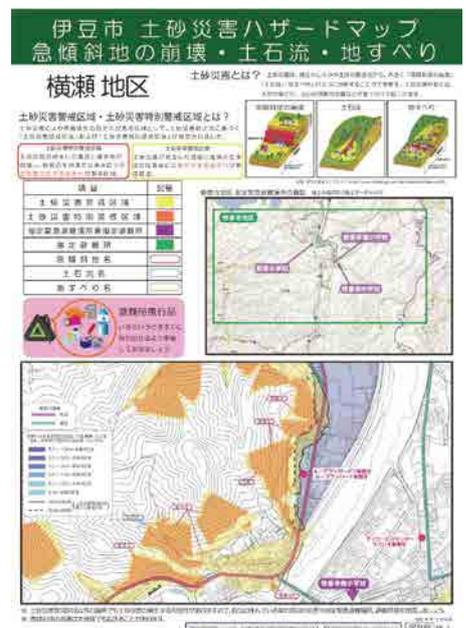
土砂災害に対する「日頃の備え」

○土砂災害ハザードマップ等の確認や避難訓練の実施

土砂災害警戒区域に指定された地区では、市町が警戒区域や避難場所等を記載した土砂災害ハザードマップを各戸に配布し、市町のホームページに掲載するとともに、県は現地に警戒区域の位置を記載した標識の設置を進めています。

また、毎年6月の土砂災害防止月間中には、各市町で「土砂災害・全国防災訓練」を実施し、警戒区域内の住民が避難所へ避難する訓練などを行っています。

ハザードマップの内容の確認や避難訓練に参加するなど、いざと言うときに確実に避難できるように日頃から準備しましょう。



土砂災害ハザードマップ



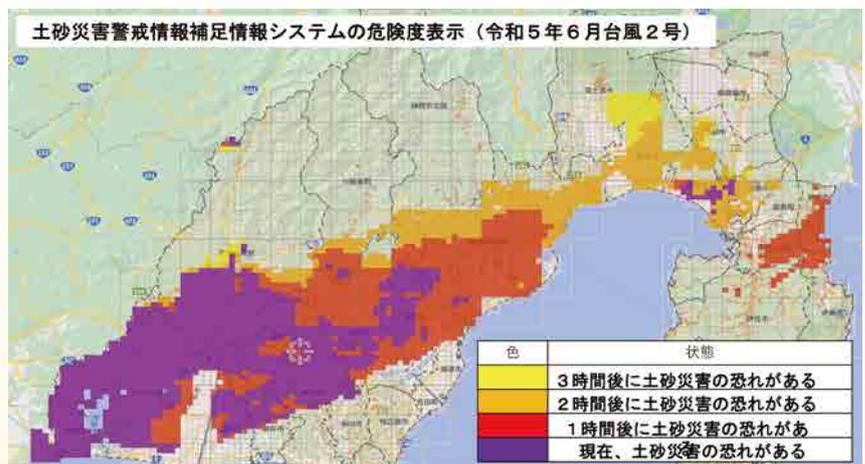
「土砂災害・全国防災訓練」

土砂災害に対する「早めの避難」

○土砂災害警戒情報の活用

「土砂災害警戒情報」は、大雨による土砂災害発生の危険性が高まった地域(市町)に対して発表され、発表後は市町の避難指示等により、速やかに避難することが重要です。

なお、土砂災害の発生危険度が把握できる「土砂災害警戒情報補足情報システム」を砂防課ホームページで公開しており、刻々と変化する土砂災害の発生危険度を色分けで把握できますので、豪雨時における避難のタイミングの参考としてください。



土砂災害警戒情報補足情報システム(砂防課ホームページ)

あなたのまちの安全度

県では、令和元年度までに指定が完了した18,215箇所（土砂災害警戒区域等）を対象に、土砂災害防止施設の整備や地形改良、令和5年度までに航空レーザ測量による高精度な地形情報を活用し、新たに9,047箇所（土砂災害警戒区域の候補箇所）指定を進めています。

引き続き、土砂災害から県民の生命・財産を守るため、砂防堰堤・擁壁などの土砂災害防止施設の整備とともに、住民への土砂警戒情報の発表などのソフト対策を合わせた、総合的な土砂災害対策を進めています。

市町別土砂災害危険箇所数とソフト対策の実施状況

（令和7年3月31日現在）

所管土木	市町名	土砂災害警戒区域指定状況				土砂災害特別警戒区域指定状況				警戒区域ハザードマップ
		土石流	地すべり	急傾斜地	計	土石流	地すべり	急傾斜地	計	
下田	下田市	256		346	602	183		328	511	599
	東伊豆町	31	6	67	104	19		66	85	104
	河津町	105	6	130	241	72		130	202	241
	南伊豆町	304	1	285	590	229		266	495	590
	松崎町	104	1	145	250	70		61	131	249
	西伊豆町	100	1	149	250	54		120	174	250
	小計	900	15	1,122	2,037	627		971	1,598	2,033
熱海	熱海市	105	1	195	301	59		194	253	301
	伊東市	107	2	259	368	72		256	328	368
	小計	212	3	454	669	131		450	581	669
沼津	沼津市	124		256	380	61		250	311	380
	三島市	22		97	119	15		89	104	119
	御殿場市	30		21	51	19		20	39	51
	裾野市	52		60	112	44		57	101	112
	伊豆市	579	11	590	1,180	355		583	938	1,180
	伊豆の国市	140	2	312	454	91		308	399	454
	函南町	37	1	105	143	27		105	132	143
	清水町	2		17	19			17	17	19
	長泉町	2		36	38	2		35	37	38
	小山町	47		78	125	11		72	83	125
	小計	1,035	14	1,572	2,621	625		1,536	2,161	2,621
富士	富士宮市	109	2	296	407	64		285	349	407
	富士市	53	2	174	229	32		155	187	229
	小計	162	4	470	636	96		440	536	636
静岡	静岡市	1,010	32	1,967	3,009	737		1,917	2,654	3,009
	小計	1,010	32	1,967	3,009	737		1,917	2,654	3,009
島田	島田市	234	42	540	816	148		527	675	816
	焼津市	29	1	60	90	17		57	74	90
	藤枝市	235	37	500	772	151		490	641	772
	牧之原市	41	5	420	466	24		418	442	466
	吉田町			12	12			11	11	12
	川根本町	55	10	195	260	34		193	227	259
	小計	594	95	1,727	2,416	374		1,696	2,070	2,415
袋井	磐田市	93		252	345	61		251	312	345
	掛川市	216	23	1,109	1,348	172		1,100	1,272	1,348
	袋井市	49		270	319	36		264	300	319
	御前崎市	16	1	351	368	14		349	363	368
	菊川市	83	4	610	697	71		606	677	697
	森町	79	18	431	528	55		422	477	528
小計	536	46	3,023	3,605	409		2,992	3,401	3,471	
浜松	浜松市	574	138	2,307	3,019	453		2,146	2,599	3,019
	湖西市	5		224	229	3		218	221	230
	小計	579	138	2,531	3,248	456		2,364	2,820	3,249
合計		5,028	347	12,866	18,241	3,455		12,366	15,821	18,103

■警戒区域ハザードマップ：土砂災害防止法8条3項に定められた、市町村が作成するハザードマップ

静岡県の土砂災害警戒区域等は、



でご覧になれます。

変に伴う区域の見直しを実施しています。
 を抽出し、公表しました。公表した候補箇所は令和7年度から本格的に基礎調査や区域
 災害(特別)警戒区域の周知(インターネットによる指定区域図の公表等)や土砂災害警

市町別ハード対策(土砂災害防止施設の整備)の実施状況

(令和7年3月31日 現在)

所管 土木	市町名	土石流			地すべり			急傾斜地			合 計		
		採択可能 溪流数	概 成 溪流数	整備率 (%)	採択可能 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)	採択可能 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)	採択可能 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)
下田	下田市	94	17	18.1				164	35	21.3	258	52	20.2
	東伊豆町	16	8	50.0	6	1	16.7	38	8	21.1	60	17	28.3
	河津町	53	15	28.3	5	2	40.0	44	13	29.5	102	30	29.4
	南伊豆町	119	14	11.8	1	1	100.0	131	40	30.5	251	55	21.9
	松崎町	71	8	11.3	1	1	100.0	77	25	32.5	149	34	22.8
	西伊豆町	64	19	29.7	1			67	20	29.9	132	39	29.5
	小 計	417	81	19.4	14	5	35.7	521	141	27.1	952	227	23.8
熱海	熱海市	91	19	20.9	1			95	16	16.8	187	35	18.7
	伊東市	82	25	30.5	2	1	50.0	110	28	25.5	194	54	27.8
	小 計	173	44	25.4	3	1	33.3	205	44	21.5	381	89	23.4
沼津	沼津市	96	22	22.9				128	74	57.8	224	96	42.9
	三島市	15	2	13.3				39	18	46.2	54	20	37.0
	御殿場市	8	6	75.0				3			11	6	54.5
	裾野市	23	11	47.8				24	6	25.0	47	17	36.2
	伊豆市	328	62	18.9	8	1	12.5	148	47	31.8	484	110	22.7
	伊豆の国市	74	5	6.8	1			82	34	41.5	157	39	24.8
	函南町	14	4	28.6	1			32	7	21.9	47	11	23.4
	清水町	2	1	50.0				11	1	9.1	13	2	15.4
	長泉町	1						18	3	16.7	19	3	15.8
	小山町	35	10	28.6				37	23	62.2	72	33	45.8
	小 計	596	123	20.6	10	1	10.0	522	213	40.8	1,128	337	29.9
富士	富士宮市	66	20	30.3	1			81	26	32.1	148	46	31.1
	富士市	48	18	37.5	1	1	100.0	55	32	58.2	104	51	49.0
	小 計	114	38	33.3	2	1	50.0	136	58	42.6	252	97	38.5
静岡	静岡市	540	139	25.7	11	4	36.4	654	312	47.7	1,205	455	37.8
	小 計	540	139	25.7	11	4	36.4	654	312	47.7	1,205	455	37.8
島田	島田市	83	19	22.9	26	7	26.9	132	75	56.8	241	101	41.9
	焼津市	13	7	53.8	1	1	100.0	25	21	84.0	39	29	74.4
	藤枝市	69	30	43.5	27	9	33.3	117	68	58.1	213	107	50.2
	牧之原市	13	12	92.3	2	3	150.0	57	25	43.9	72	40	55.6
	吉田町							3	2	66.7	3	2	66.7
	川根本町	23	4	17.4				33	14	42.4	56	18	32.1
小 計	201	72	35.8	56	20	35.7	367	205	55.9	624	297	47.6	
袋井	磐田市	20	3	15.0				33	8	24.2	53	11	20.8
	掛川市	39	3	7.7	11	7	63.6	102	31	30.4	152	41	27.0
	袋井市	7						30	11	36.7	37	11	29.7
	御前崎市	1						33	18	54.5	34	18	52.9
	菊川市	9	2	22.2		1		84	36	42.9	93	39	41.9
	森町	23	8	34.8	5	2	40.0	26	4	15.4	54	14	25.9
小 計	99	16	16.2	16	10	62.5	308	108	35.1	423	134	31.7	
浜松	天竜区	128	53	41.4	66	26	39.4	306	90	29.4	500	169	33.8
	天竜区以外	43	11	25.6	5	4	80.0	281	70	24.9	329	85	25.8
	浜松市計	171	64	37.4	71	30	42.3	587	160	27.3	829	254	30.6
	湖西市							54	10	18.5	54	10	18.5
小 計	171	64	37.4	71	30	42.3	641	170	26.5	883	264	29.9	
合 計		2,311	577	25.0	183	72	39.3	3,354	1,251	37.3	5,848	1,900	32.5

■土石流危険溪流はH15公表による危険溪流I
 土石流危険溪流は直轄施行分含み

■地すべりは
 国土交通省所管のみ

■急傾斜地崩壊危険箇所は
 H15公表による危険箇所I

令和6年度

「土砂災害に関する絵画・作文」優秀作品の表彰

令和6年度に、土砂災害防止月間の取組の一環である「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集したところ、県内で24点の応募がありました。

今年度は、浜松市立麓玉小学校の平田楓奈さんの作文が国土交通事務次官賞に、静岡市立清水第六中学校の山崎優月さんの作文が静岡県知事賞に、静岡市立清水小島小学校の居波湊大さんの絵画が交通基盤部長賞に選ばれました。また、全国治水砂防協会静岡県支部長賞他3点の計6点が受賞しました。

3月25日(火)に県庁で行われた表彰式では、御家族の方々が見守る中、静岡県交通基盤部長より、受賞者の皆さんに表彰状が授与されました。



令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」コンクール表彰式

受賞者と交通基盤部長、砂防課長の集合写真
(平田楓奈さんは欠席)



「土砂災害防止に関する絵画・作文」コンクール表彰式

静岡県知事賞を受賞した山崎優月さんの表彰風景



「土砂災害防止に関する絵画・作文」コンクール表彰式

静岡県交通基盤部長賞を受賞した居波湊大さんの表彰風景

賞	部門	学年	学校／受賞者名
国土交通 事務次官賞	小学生作文	6	浜松市立麓玉小学校 ひらた かな 平田 楓奈
静岡県 知事賞	中学生作文	2	静岡市立清水第六中学校 やまざき ゆづき 山崎 優月
静岡県交通 基盤部長賞	小学生絵画	3	静岡市立清水小島小学校 いなみ そうた 居波 湊大
全国治水砂防協会静岡県支部長賞	小学生作文	4	静岡市立番町小学校 すずき りんと 鈴木 凛人
	中学生絵画	1	三島市立山田中学校 なつめ さわ 夏目 采和
	中学生絵画	3	浜松市立北浜中学校 まつしま こうめい 松島 幸明

(敬称略)

国土交通事務次官賞

「土砂災害から身を守るために」

浜松市立鹿玉小学校6年 平田 楓奈さん

今年の元旦、能登半島で大きな地震が起こった。七月には、愛媛県松山市で大雨によって土石流が起き、三人の方が亡くなった。今年も大規模な災害が各地で起きている。

私が三年生の時、熱海で大きな土砂災害が起こった。一瞬にしてたくさんの家が流され、多くの方の尊い命が奪われた。命が助かった方も、それまで生活してきた家や思い出の場所がめっちゃくちゃに壊され、不自由な生活を余儀なくされた。なぜ土砂災害が起こるのだろう。疑問に思った私は、あの夏から四年間土砂災害について研究をしてきた。

私が研究をしたのは、土砂災害が起こるにはどんな条件が関係しているかだ。土砂災害には、「斜面の角度」「泥と砂と礫の割合」「土の中に含まれる水の量」「雨量」「そこに生える植物の根の様子」「堆積期間」が関係していることが分かった。そして、「法枠」があることによって、土砂災害が起こるのを一定期間防げることが分かった。今まで、いろいろな実験をしたり、土砂災害の起こったところを見学したりして、やはり自然災害は、人間の力で防ぐことはできないと改めて実感した。だから、被害を少なくするためにできる対策をしておくことが大切だ。そして、山を削ったり、盛り土をしたりするのを出来るだけ少なく、人的災害が起こらないようにしていく必要がある。法枠の実験をして、法枠があっても崩れることがあると分かった。「法枠があるからもう大丈夫。」とは言えない。法枠があっても崩れてしまうかもしれない。「雨が止んだからもう大丈夫。」とは言えない。山はもう水を含み切れなくなって、崩れるかもしれない。「山を削って新しい道路を作ろう。」斜面の角度が急で、崖崩れが起こるかもしれない。削った場所の地盤が、弱くなってしまうかもしれない。人間が暮らしやすい場所にするために行うことだけど、それが土砂災害の大きな原因になることもある。

夏休みの終わりから、台風十号の影響で、大雨が続いている。浜松市でも、道路が冠水したり、土砂崩れが起こったりした。私が住んでいるところは、みんな安全だというけれど、今回の被害のニュースを見ていて、大雨の怖さを実感した。もし、浜松市でもっと大きな災害が起こってしまったら、私も避難生活を送ることになるかもしれない。小学生の私には、難しいことはできないけれど、私にもできることがある。率先して食事の配膳や支援物資を配る手伝いをしたり、避難してきた人に声をかけて、元気づけたりすることができると思う。

研究の中で、熱海市で保健師として働く優子さんの話を聞いた。その時、災害現場の大変さをすごく感じた。その後実際に、熱海の土石流災害の起こった場所へ連れて行ってもらった。熱海の街は、あの土石流が本当にあったのかと思うくらい観光客で賑わっていた。けれど、被害にあった場所は、崖がむき出しになっていたり、家の窓や壁が壊れたままになっていたりするところもあった。あの土石流のニュースでよく出てきた、消防隊員の方が必死に呼び掛けている場所にも行った。もし、私がああ現場にいたら、土石流に流されていたかもしれないと思うと、怖くてたまらなかった。自然の恐ろしさがよく分かった。

今まで、自分や周りの人も、「自分の地区で災害は起こらないだろう。」と思い込んでいるところがあった。これからは、災害がどんな時、どんな場所で起こるかを考えて、行動したい。熱海土石流のような被害が起こらないために、土砂災害の研究をして分かったこと、自然の怖さをみんなにも伝えて、命を守る行動をする準備をしていきたいと思った。自然は良いところがたくさんある。けれど、恐ろしいこともたくさんある。だから、自然の力の恐ろしさを知った上で、自然の良いところを生かしていきたいと思った。

静岡県 交通基盤部長賞

静岡市立清水小島小学校3年 居波 湊大さん



全国治水砂防協会 静岡県支部長賞

三島市立山田中学校1年 夏目 采和さん



浜松市立北浜中学校3年 松島 幸明さん



静岡県知事賞

「災害に備えることは知ること」 静岡市立清水第六中学校2年 山崎 優月 さん

土砂災害とは、大雨や地震に伴う斜面崩壊がけ崩れ、土砂崩れ、地すべり、土石流などにより人の生命や財産が脅かされる災害をいう(ウィキペディアより)。

水害とは、水による災害の総称。洪水、高潮など水が多すぎるため起こる災害の総称。「水災害」や「水災」とも言う。洪水、浸水冠水、水の原因とした土石流、山崩れ、崖崩れなどがこれに含まれる(ウィキペディアより)。

多くの住む地域では、令和四年九月、台風十五号による豪雨で、ひどい水害にあった。地域のみんが警戒していたが、その前の台風による大雨の時に難をのがれたので、少し警戒する気持ちが緩んでいたのかもしれない。大人は眠れない夜を過ごしていた。ほくも時々目を覚ますと、家の車が見るみる大雨に浸っていくのを目の当たりにした。

朝起きると、地面一面が真っ茶色の泥におおわれていた。駐車場には、どこから流れてきたかわからない、さまざまな物がたまっていて。何より衝撃だったのは、家の車三台分が大雨に浸って廃車になってしまったことだ。近所には水が出ない家もあったが、家はかるうじて水がチョロチョロ出ているので近所の家にも使ってもらいながら、家の周囲や車、道を水で洗っていった。川の中の泥なのか、山の方から流れてきた泥なのか真っ茶色で取れにくかった事を覚えている。

飲み水を少しでも確保するために、高校生だった兄と泥の道

をコンビニまで歩いた事も思い出す。

土砂災害とは、水害とは、と考えていくと、台風や豪雨による水の影響がとても大きな事になるのではないかと考えた。もっとたどっていけば、人類の環境汚染による地球温暖化による異常気象が台風や豪雨をもたらすのだと考えた。

土砂災害に備えるため、国や県が行っていることを調べたところ、砂防といって土砂災害から命や暮らしを守るための砂防えん堤などの施設を作ったり、植樹をしたり、溪流保全工が行われていることを知った。また、工事で自然や貴重な生物、景色の邪魔にならないようにしている事も知った。

このような事から、土砂災害や水害に備えるためには「知る」事が大切になるのではないかと考えた。国の取組み→県の取組み→市の取組み→地域の取組み→家族の取組み→ほく個人

の取組みを知る事だ。知ること、足りない事や災害時のポイントを事前に知識として得ることもできる。そして、また災害にあってしまった時に、自分の持っている知識を発揮して家族や地域のために動けると思うから、「知る」事が大切なのだ。

日常の中で、ほくが出来る取組としては、地域の地形を知る事、どのような災害が起きやすいかを知る事、災害時の家族のルールを作る事、地球温暖化を防ぐためにリサイクルや節電を心掛ける事、などだ。そして、「知る」事を意識して生活していきたい。

全国治水砂防協会 静岡県支部長賞

「災害と人々とのたたかい」 静岡市立番町小学校4年 鈴木 凜人 さん

『由比地すべり子ども見学会』に参加した。

今回は二度目なので、深礎工内の見学では、働く人達の願いや、思いが伝わってくるようだった。地下水をとりのぞくための『排水トンネル。』

「未然に防ぐための大切な場所なのだ。」

と、思いながら広い中を歩いた。トンネル内は涼しかった。水とかかわっているトンネルだからだと思った。

見学の順番は前後するが、写真や資料を見ながら『清水区由比区の地すべり災害』の話があった。以前祖母から聞いたことのある話だと思い、土屋教授の話と、重ねながら考えてみようと思った。

昭和四十九年七月七日。台風のえいきょうで梅雨前線が停滞。夜、玄関に水が入ってきたので、平屋建てに住んでいた祖母達家族は近所の二階のある家までひなん。ひざがかくれる位の水の中を歩いたようだ。三、四分歩いて着いた近所の家は、すでに階段の途中まで水があがっていた。あつという間のできごと。二階で夜を過ごし、翌朝、二階から見た景色にあぜん。周囲は、湖の上に屋根だけが見えているようだったと言っていた。様子のわかる写真を見せてくれた。迎えに来てくれたゴムボートに二階の窓から飛び降りひなん。落ち着いた後、帰宅したら、重いはずの冷蔵庫は水に浮き、押し入れの下(床上1m位)まで、水が入った跡が残っていたようだ。

かたむきが少ないので、川の流れがゆっくりな巴川の改修に先人達も苦労したこと、麻機遊水地、学校の運動場を一時的な遊水池としていること。大谷放水路の完成に至るまでのことなども、祖母の体験をまじえながら話してくれた。

土屋教授が説明してくださった『昭和三十六年・四十九年の地すべり災害』について、夏休みに入り、資料をゆっくり読み返した。江戸時代の『由比の地すべり災害の記録』から、地すべり災害

と先人達の苦労が伝わってきた。まるで、由比という地質とたたかっているように感じた。

『三十六年に発生した地すべりの土砂を利用し、沿岸が埋め立てられ、東名高速道路が現在の位置につくられた』と、書いてあった。

「高波がきたらこわいだろうな。」

と思っていたので、理由がわかりスッキリ。

四十九年七夕ごう雨による地すべり災害。『国道一号を二十三日間・東海道線を七日間も不通』と書いてあった。

「この間、人間の動きや物流などはどうしていたのだろう。不便だったろうな。」

予想はつく。復旧作業の一生懸命が伝わる。

七夕ごう雨による災害以後は、大きな災害が起きていないことがわかった。これは工事にたずさわっている人々の技術と工夫のおかげだと思う。その一つである『深礎工』の中にエレベーターで下り、直接体験できたことは、僕の宝物だ。

二年前の台風十五号では、巴川流域に住む清水区の人々は床上浸水し、

「五十年前の、七夕ごう雨を思い出すようだ」

と、新聞で語っていた。巴川は、治水対策が進んでいる中でも、まだこのような災害は起きている。

沼津でも、治水対策のひとつである。川の「枝分かれ」から海に流す方法を試考し、国から許可されたようだ。それが五十年以上もかかっているという、記事もあった。

由比では『二十四時間、地すべりを見張っている、観測センター』があり、コンピューターによってかんじられている。

地質・地形の特長を知り、それらを少しでも抑えていけるのが人間の知恵だと思う。

まさに、自然災害と人間とのたたかいだと強く思った。

熱海市

熱海市は、伊豆半島の玄関口に位置し、相模湾に面し三方を山に囲まれた風光明媚な自然景観、豊富な温泉資源を有しており、年間宿泊施設利用者数が296万人に達する全国有数の温泉観光都市です。熱海港は、静岡県内唯一の有人離島である初島や伊豆大島への定期船が就航しています。また、夏だけではなく年間を通して海上花火大会を開催しており、多くの来遊客で賑わっています。

一年を通して温暖な気候である本市は、日本で最も早咲きとして有名な梅、12月頃に開花する「あたま桜」、6月頃には紫色の

花が美しいジャカランダも

咲き誇り、多くの文人墨客にも愛されてきました。

しかし、その地形ゆえに土砂災害や津波等の自然災害の危険性を抱えています。熱海市では令和3年7月に発生した伊豆山土石流災害後には砂防堰堤の新設、令和6年8月の台風第10号による土砂崩落が発生した2箇所においても、災害関連緊急事業による法粋工が進められておりますが、市内301箇所が土砂災害危険箇所指定されていることから、今後も住民が安心・安全に暮らせるよう、国、県をはじめとした関係機関と協力し、土砂災害対策を進めてまいりますので、御支援御協力を賜りますようお願いいたします。



ジャカランダと熱海サンビーチ



熱海海上花火大会

歴史探訪

狩野川台風

砂防の歴史は、土砂災害の歴史とも言えます。本県では過去よりたびたび大規模な土砂災害に見舞われており、その中でも特筆すべきものの一つに、「狩野川台風」があります。

狩野川台風は、昭和33年9月26日の夜に伊豆半島東岸を北上し、伊豆半島中部に739mmの記録的豪雨をもたらし、狩野川等の氾濫や約1,200箇所にも及ぶ土砂災害が発生し、死者・行方不明者あわせて853名、全壊・流失家屋958戸などの未曾有の被害となりました。

特に、伊豆市湯ヶ島の雨量計では時間120mmの猛烈な豪雨となり、伊豆市筏場地区では崩壊面積6,000㎡、深さ80mの大崩壊が発生し、下流域へ甚大な被害をもたらしました。

この大災害の現状を鑑み、時の建設大臣遠藤三郎（裾野市出身）は、国の直轄による砂防工事に取り組むことを宣し、狩野川台風の翌年の昭和34年度より、狩野川上流域を直轄砂防区域としました。以来65年、沼津河川国道事務所により、荒廃した溪流における砂防事業を推進し、現在までに135基の砂防堰堤等を整備し、地域住民の安全・安心に貢献しています。

また、この大災害の記憶を未来へ語り伝え、次世代へ教訓を引き継ぎ、防災意識の向上に資することを目的に、国、県、市町などの狩野川の流域関係者が中心となり、平成26年に「狩野川台風の記憶をつなぐ会」が設立されました。今年度は狩野川放水路60周年記念事業が8月に計画されています。



伊豆市筏場地区(国土交通省提供)



伊豆市熊坂地区(国土交通省提供)

● 砂防学会東海支部主催の講習会・現地見学会が開催される ●

11月29日(金)に、火山噴火による土砂災害の防災・減災に対する砂防技術の向上を図ることを目的とした砂防学会東海支部の講習会・現地見学会が国土交通省富士砂防事務所等で開催され、大学関係者、国、県、コンサルタンツなど約20名が参加しました。

国、県から富士山や伊豆東部火山群における火山砂防の取組の説明に続き、大沢崩れ下流の岩樋の土石流観測施設や大沢川遊砂地の見学を行うなど、火山砂防の対策施設や取組状況について学びました。



富士砂防事務所での講習会



岩樋の土石流観測施設の見学

● 台湾新北市農業局が本県の土砂災害対策の現状を視察 ●

12月11日(水)に、台湾新北市農業局関係者9名が本県の土砂災害対策の現状を視察しました。新北市では、本県同様に近年土砂災害が多く発生しており、令和5年には新北市の招待により、砂防課職員が現地で講演するなど土砂災害対策を通じた交流を行っています。

当日は、本県の土砂災害対策に関する現状を説明し、ハード対策とソフト対策が一体となった効果などに関する活発な意見交換を行いました。また、国土交通省富士砂防事務所が対策工事を実施している「由比地すべり」や熱海市内の工事現場を視察しました。今後も土砂災害に関する情報共有など様々な機会での交流を図ります。



集合写真(県庁サイポス室)



由比地すべり工事現場(富士砂防事務所)

● 静岡県土砂災害防止法連絡会幹事会を開催しました ●

1月30日(木)に、令和6年度静岡県土砂災害防止法連絡会幹事会を県庁で開催しました。本会議は、土砂災害防止法に基づく総合的な土砂災害対策の円滑な実施を図るために、県庁の関係各課の取組や課題等についての情報共有、連絡調整を図るものです。

まちづくりと連携した取組や違法盛土等の地形改変箇所を所管する都市計画課と盛土対策課が新たに委員に加わり、令和6年度の土砂災害防止法に係る取組や令和7年度からの土砂災害警戒区域の候補箇所の指定に向けた基礎調査の取組について、情報共有を図りました。



静岡県土砂災害防止法連絡会幹事会

● 静岡県砂防ボランティア協会の総会及び研修会を開催しました ●

1月31日(金)に、「令和6年度(第29回)静岡県砂防ボランティア協会総会及び研修会」を静岡県男女共同参画センターあざれあ(静岡市葵区)で開催し、会員31名が出席しました。

総会では、会員の急傾斜地パトロールや土砂災害防災訓練等への参加、北沢会長の全国連絡協議会や砂防ボランティア全国の集い(広島県広島市)への出席報告などの令和6年度の活動報告と令和7年度の活動予定の確認等を行いました。

また、総会後には(一社)全国治水砂防協会の岡本副会長による砂防法等に関する研修会を行い、ユーモアを交えた幅広い知識の研修内容で会場は大いに盛り上がりました。



岡本副会長の研修会



集合写真

第65回砂防および地すべり防止講習会が開催される

(本県の元砂防課長の加納章氏が赤木顕功賞を受賞)

2月13日(木)～14日(金)に、「第65回砂防および地すべり防止講習会」が砂防会館(東京都)で開催されました。講習会に先立ち、砂防行政の発展及び砂防技術の向上に多大な功績があった方々に贈られる赤木各賞の授与式が行われ、本県の元砂防課長の加納章氏に赤木顕功賞が授与されました。

また、講習会では、赤木賞を受賞された鹿児島大学名誉教授地頭菌氏による「地域に学び、地域に返す～鹿児島における土砂災害研究～」の特別講演をはじめ、草野砂防部長の「今後の土砂災害対策の方向性」、神奈川県逗子市長の「市民の生命・財産を守るがけ地安全対策と立地適正化計画」など砂防に関する幅広い講演がありました。



赤木顕功賞受賞 加納章氏



講習会

山梨県議会議員が本県砂防事業を視察

1月21日(火)に、山梨県議会「自由民主党開の国」の10名が本県の砂防事業を視察しました。熱海土石流災害の現場を車中で視察した後、熱海総合庁舎内において、杉山砂防課長が「本県の土砂災害対策」について、熱海土木事務所伊豆山復興支援課の関野技監が「熱海土石流災害の対応」について説明しました。出席者から「大規模な災害発生時の国との連携」や「実効性のある避難行動につながるソフト対策」などの活発な質疑があり、貴重な情報交換の場となりました。



杉山砂防課長による土砂災害対策の説明

第7回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会議を開催しました

2月21日(金)に、「第7回伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会議」を伊東市役所で開催し、国土交通省沼津河川国道事務所、県、関係市町等が対面又はWebで出席しました。

会議では、対象溪流における緊急減災対策ドリルの作成状況等の報告に加え、令和7年度には緊急減災対策砂防計画に基づく実践的な訓練を実施することが確認されました。

火山現象が生じた際には迅速に連携できるよう、今後も関係機関における情報共有等を図っていきます。



連絡会議

富士砂防事務所で無人化施工バックホウ見学会が開催される

2月19日(水)に、富士山麓の大沢川遊砂地で国土交通省富士砂防事務所主催の「無人化施工バックホウ見学会」が開催され、静岡・山梨県内の県・市町職員、建設会社など66名が参加しました。

今回の見学会では、建設現場における省人化対策として、遠隔操縦式バックホウや通常のバックホウを遠隔操作する「ロボQS(簡易遠隔操縦装置)」、UAVの自律飛行を見学し、特徴や留意点などの説明がありました。

「ロボQS」は令和6年9月に静岡市葵区の林道で発生した斜面崩壊の復旧現場でも使用されており、今後も安全かつ迅速な災害対応での活用が期待されます。



ロボQSを装備したバックホウの遠隔操作

募集・お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の募集

今年度も土砂災害の恐ろしさや土砂災害防止の重要性を伝えるため、絵画・作文を募集します。募集要項については、各小・中学校へ送付しますが、下記でもご覧いただけます。

- 【募集対象】 小・中学生 【応募期間】 6月1日(日)～9月15日(月)
 【応募方法】 作品には応募者の学校名(ふりがな)、学年、氏名(ふりがな)を明記してください。
 【応募先】 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
 静岡県交通基盤部砂防課 砂防班
 TEL.(054)221-3044 FAX.(054)221-3564

詳細は、砂防課ホームページからもご覧いただけます。
<http://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/index.html>



出前講座・土砂災害防止講習会の開催募集

土砂災害に関する出前講座・講習会を開催しませんか? 県の砂防課や土木事務所の職員が講師として説明に伺います。お気軽にお問合せください。

- 【出前講座の対象】 小学生～高校生
 【講習会の対象】 どなたでも
 【開催日時】 相談ください

問合せ 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課
 TEL(054)221-3044
 E-mail sabo@pref.shizuoka.lg.jp



土木事務所企画班砂防担当者の紹介

県砂防課では、出前講座および講習会を随時受付けております。

事務所	企画TEL・FAX	担当者
下田土木	TEL:(0558)24-2113 FAX:(0558)24-2123	水野 雄一
熱海土木	TEL:(0557)82-9171 FAX:(0557)82-9110	鈴木 悟 木下 紘輔
沼津土木	TEL:(055)920-2212 FAX:(055)922-6684	清井 憲三 出塚 隼吾 江塚 悠吾
富士土木	TEL:(0545)65-2217 FAX:(0545)65-2270	加藤 喬平

事務所	企画TEL・FAX	担当者
静岡土木	TEL:(054)286-9321 FAX:(054)286-9375	小田 匠 池田 薫
島田土木	TEL:(0547)37-5272 FAX:(0547)37-6183	石川 峻亮
袋井土木	TEL:(0538)42-3216 FAX:(0538)42-1782	吉澤 光祐
浜松土木	TEL:(053)458-7266 FAX:(053)458-7193	小沼 佳記 植野 雄大



【表紙写真】
富士山東海道新幹線
 (撮影地:富士市)
 写真提供:静岡県観光協会
 ※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編集・後記

花筏が水面を美しく彩る季節となりました。皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。
 このたび、本年3月31日をもって全国治水砂防協会静岡県支部を退職いたしました。砂防事業を考究し、普及発展を図ることを目的とした本支部において、様々な事を学ばせていただきました。三年という短い期間ではありましたが、大過なく任務を果たすことができましたのは、ひとえに皆様方の御支援 御厚情によるものと心より感謝いたします。
 末筆ながら、皆様の御多幸と益々の御活躍を心よりお祈り申し上げます。
 全国治水砂防協会静岡県支部 小杉 祐子

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



第216号 発行日: 令和7年4月15日
 編集・発行: 全国治水砂防協会静岡県支部
 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
 TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail:sbkk_s@yahoo.co.jp

